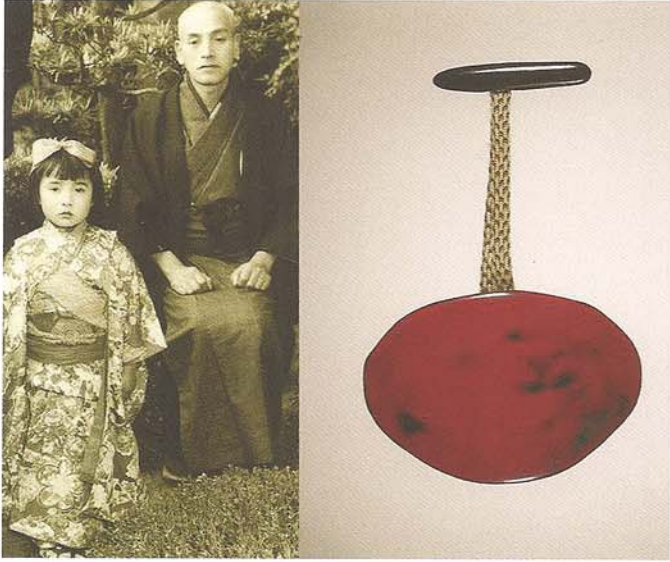
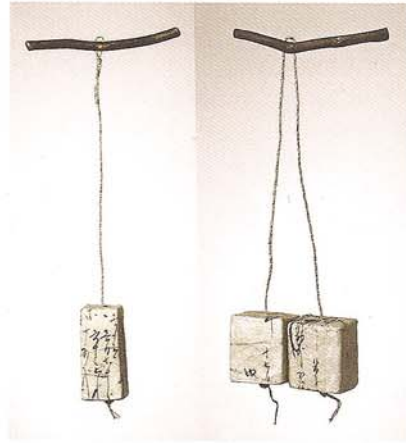


フィンランド・ヘルシンキ発：ロールモデルは祖父 福地恭子さんが腰に着けるジュエリー展に出品



ヘルシンキのDESIGN MUSEOで、1月14日までの約3カ月のロングランで、ジュエリー展《CHALLENGING THE CHÂTELAINE!》が催されました。シャトレーンとは腰に着ける飾のことで、それぞれの作家が、ロールモデルを設定して作

品を作るという企画。出品者は、世界から集められた72人の現代ジュエリーアーティスト。多くはベテランで、日本では、広島福地恭子、東京の小倉理都子の2氏が出品しました。福地さんは、祖父をロールモデル



にした作品を出品。着物商を営んでいたご祖父は、日本人の体形には着物が最も似合うと、戦後、日本に西洋文化が入るも着物を愛し続けたそうです。その130年にもおよぶ、商売を記した大福帳を使ったもの(写真上・右)と、シルクと漆のジュエ

リー(同・左)を発表(写真はカタログより)。また、小倉さんは、同じジュエリー作家で、最もリスペクトする一人という中村ミナト氏をモデルにした作品を見せていました。なお、同展は、この後、米・ヒューストンを巡回するそうです。

ドイツ・ハナウ発：12人のジュエリー展 5月5日まで開催中

ドイツ・ハナウの貴金属装飾工芸美術館(Gesellschaft für Goldschmiedekunst e.V)で、5月5日まで、国際的に活躍するジュエリー作家12人の作品展が開かれています。展示作品は120点。写真はその中から、4人の作品です。



写真上・左：Jeusenの木と銀のリング/同右：Buna Hanertの銀とアコヤ真珠をパンで作ったプレスレット/同下・左：Gitte Pielckeのおし花をプラスチックでブリザーブしたネックレス/同・右：Claudia Steblerの銀で作ったガムの包み紙とリング